



2022年9月14日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 リ グ ア
代 表 者 名 代表取締役社長 川瀬 紀彦
(コード番号：7090 東証グロース)
問 合 せ 先 取締役管理部長 大浦 徹也
(TEL：06-7777-0159)

株式会社テイコク製薬社との合弁会社設立に関するお知らせ

当社は、昨日開催の取締役会において、株式会社テイコク製薬社（以下、「テイコク製薬社」という）との共同出資により、合弁会社を設立することについて決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 合弁会社設立の目的

当社グループは「DESIGNING WELLNESS LIFE」というブランドパーパスのもと「人生の不安をなくし、生きるをサポートする。」企業グループとして事業を展開しております。人生100年時代を迎え、ますます健康への注目が高まる中、当社グループでは本当に健康である状態とは予防分野の活性化による「からだ」と「こころ」が健康な状態であり、「からだ」を始めとする様々な不安をなくすことができれば、人生はもっと豊かで前向きになると考えております。

テイコク製薬社は、1965年に事業を開始し、2012年より温泉水の効能に関する調査を始め、血中の一酸化窒素（NO）※1に作用する「IFMC.（イフミック）」※2を発見後、2018年より東京都市大学内の研究施設にて研究を進めており、2019年には「血中一酸化窒素（NO）量の増加」「血管拡張」「バランス能力向上」の3項において特許を取得しております。

当社は、2021年3月31日付「株式会社テイコク製薬社との業務提携契約の締結に関するお知らせ」に記載のとおり、テイコク製薬社との業務提携を行い、「IFMC.（イフミック）」の特許技術を使用した自社ブランド「Dr. Supporter」※3の販売に注力してまいりました。

薬やサプリメントのように服用する必要がなく、特殊加工した繊維を身体に近づけることで血中の一酸化窒素（NO）に作用し、「血行促進効果」が期待できる「IFMC.（イフミック）」の可能性を追求することで、多くの人々が「からだ」の不調を抱える現代社会の健康課題の解決に繋がるものと考え、両社で合弁会社を設立し、取り組んで行くこととなりました。

- ※1 一酸化窒素（NO）は、人体の血管を拡げて血流量を増やす作用がある物質と考えられており、一酸化窒素の血管拡張作用は1998年にノーベル医学・生理学賞を授与されたイグナロ博士によって発見されています。
- ※2 温泉水の物理・化学的作用に着目し、特定の溶出液に含まれるナノメートルレベルの微小なミネラル結晶、血中一酸化窒素（NO）量の増加「血管拡張」「バランス能力向上」で効果が認められ、2019年7月に株式会社テイコクが特許を取得（特許第6557442号）
- ※3 血行を促進して日常をケアするヘルスケアブランドとして、IFMC.技術を使用した一般医療機器を中心に2021年6月より販売を開始。2022年3月期の販売実績は179百万円（導入院数337院）

2. 合弁会社の概要

① 名 称	株式会社IFMC.
② 所 在 地	大阪府中央区淡路町2丁目6-6 淡路町パークビル2号館
③ 代表者の役職・氏名	未定
④ 事 業 内 容	IFMC. の開発、プロモーション活動、代理店等の管理業務等
⑤ 資 本 金 等	1,000万円(資本準備金含む)
⑥ 設 立 年 月 日	2022年10月1日(予定)
⑦ 決 算 期	3月
⑧ 純 資 産	1,000万円
⑨ 総 資 産	1,000万円
⑩ 出 資 比 率	株式会社リグア(70%) 株式会社テイコク製薬社(30%)

3. 合弁契約の相手先の概要

① 名 称	株式会社テイコク製薬社	
② 所 在 地	大阪府港区弁天1丁目2番1号 大阪ペイタワーオフィス5階	
③ 代表者の役職・氏名	代表取締役 畠山 兼一郎	
④ 事 業 内 容	IFMC. (集積機能性ミネラル結晶体) 事業 ファーマシー事業 調剤薬局事業 商品開発事業 医療機器の製造・販売業	
⑤ 資 本 金	1,000万円	
⑥ 設 立 年 月 日	1965年3月18日	
⑦ 上場会社と当該会社との間の関係	資 本 関 係	当社と当該会社との間には、該当事項はありません。なお、当該会社の代表取締役である畠山 兼一郎氏は当社の株式を保有しておりますが、保有割合は軽微であります。
	人 的 関 係	該当事項はありません。
	取 引 関 係	当社は当該会社に対して IFMC. 製品に関する仕入取引があります。
	関 連 当 事 者 へ の 該 当 状 況	該当事項はありません。

※当該会社は非公開会社であり、「大株主及び持株比率」ならびに「当該会社の最近3年間の経営成績及び財政状態」の数値につきましては、相手先の意向により非開示としております。

4. 日程

① 取 締 役 会 決 議 日	2022年9月13日
② 契 約 締 結 日	2022年9月14日
③ 合 弁 会 社 設 立 日	2022年10月1日(予定)

5. 今後の見通し

本件による当社の2023年3月期の連結業績に与える影響は軽微です。

以上

(参考) 当期連結業績予想 (2022年5月10日公表分) 及び前期連結実績

(単位: 百万円)	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
当期連結業績予想 (2023年3月期)	3,335 ~3,535	△64 ~83	△77 ~70	△62 ~34
前期連結実績 (2022年3月期)	3,202	158	151	72



株式会社テイコク製薬社との
合併会社設立に関するお知らせ
【補足資料】

株式会社リグア
東証グロース（7090）
2022年9月14日

IRニューズメール
配信登録はこちら





1

合併会社設立の概要と目的



2

IFMC. (イフミック) について

合併会社設立の概要と目的

目的
01

管理医療機器の認証
に向けた研究開発



テイコク製薬社

研究開発力

IFMCの特許技術
東京都市大学にて研究開発
Nanomaterials誌での論文展開

一般医療機器の製造・販売

メーカーとしてのノウハウ

調剤薬局

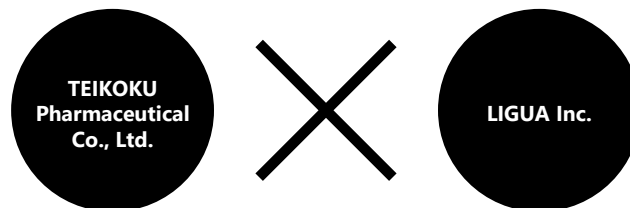
調剤薬局での販売実績

目的
02

IFMC.の普及に向けた
ブランド・品質管理、PR活動

IFMC.

合併会社設立



株式会社IFMC.

目的
03

IFMC.技術を活用した
OEM商品の開発および販売

Dr.Supporter

LIGUA

接骨院での実績・知名度

取引実績：約4,000院

OEM販売、新規代理店の開拓

営業力を活かした販売先の開拓

オリジナル商品・サービスの開発

Dr. Supporter、My Supporter の展開

多様なソリューション

ヘルスケア分野におけるコンサルティング力

医療機器の分類と規制

国際分類	クラス I	クラス II	クラス III	クラス IV
分類	一般医療機器	管理医療機器	高度管理医療機器	
許認可区分	届出	承認／認証 ※	承認／認証	承認
リスク	「極めて低い」 不具合が生じた場合でも、 人体へのリスクが極めて 低いと考えられるもの	「低い」 不具合が生じた場合でも、 人体へのリスクが比較的 低いと考えられるもの	「中」 不具合が生じた場合には、 人体へのリスクが比較的 高いと考えられるもの	「高」 不具合が生じた場合には、 生命の危険に直結する恐れ があるもの
医療機器例 【例】	<ul style="list-style-type: none"> 対外診断用機器 鋼製小物（メス等） 歯科技工用用品 聴診器  <p>現在は一般医療機器</p>	<ul style="list-style-type: none"> MRI装置 電子内視鏡 電子体温計 電子式血圧計 <p>さらなる可能性 を追求し、 管理医療機器の 認証を目指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> 透析機器 放射線治療機器 輸液ポンプ 人工呼吸器 人工心肺装置 	<ul style="list-style-type: none"> ペースメーカー 人工血管 人工心臓弁 冠動脈ステント 吸収性縫合糸

※：認証基準が定められている場合は認証基準に基づくRCBによる認証を受け、認証基準のない品目又は認証基準に適合しない品目はPMDAの承認審査が行われます。
（PMDA：独立行政法人 医薬品医療機器総合機構、RCB：第三者登録認証機関）

IFMC.の可能性を追求し、最大限に活用することで、
持続可能な社会の実現に寄与することを目指します。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



「ミネラル」の可能性を、人に、社会に。

IFMC.（イフミック：集積機能性ミネラル結晶体）は、
『温泉療法』に着眼して製造されたナノメートルレベルの非常に微小な『ミネラル結晶体』です。
数種類の鉱物や温泉水を特定の配合で組み合わせた溶出液を繊維に加工し、身体に近接させることで、
血中の一酸化窒素（NO）に作用し、血管が拡張し、血流が増加する効果（血行促進）が期待できます。
生理活性作用を有する新規技術として、健康増進、健康寿命の延伸に寄与したいと考えております。

A close-up photograph of two hands shaking, symbolizing agreement or partnership. The hands are positioned centrally, with fingers slightly curled and palms facing each other. The background is a soft, out-of-focus white.

1

合併会社設立の概要と目的

A blue background filled with various white icons representing technology and business. Icons include a bar chart with a magnifying glass, a cloud with a download arrow, a gear, a network diagram, a person silhouette, and a document with a checkmark. The icons are scattered across the background, creating a sense of digital connectivity and innovation.

2

IFMC.（イフミック）について

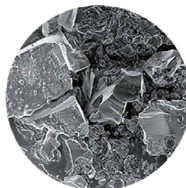
IFMC. (イフミック) とは？



IFMC. 公式サイト
<https://ifmc.jp/>

血中の一酸化窒素に作用して 血行を促進するミネラル結晶体

IFMC. (イフミック) は、『温泉療法』に着眼して製造されたナノメートルレベルの非常に微小なミネラル結晶体です。薬やサプリメントのように服用する必要はなく、身体に近づけることで血中一酸化窒素に作用し、血管拡張による『血行促進効果』が期待できます。



※当社の「Dr. Supporter」は、IFMC.技術を使用しています。

IFMC. の歩み

- 2012 テイコク製薬社 畠山代表が温泉水の効能に関心を持ち調査を始める
- 2016.2 テイコク製薬社が総合研究所を設立
- 2017.7 IFMC. (イフミック) を発見
- 2018.4 東京都市大学の総合研究所内に「ミネラル結晶体研究センター」を設立
- 2019.7 **特許を取得**
- 2020.1 茨城県 東海村 大強度陽子加速器施設 (J-PARC) にて IFMC. の実験を開始
- 2021.6 (株)リグアがIFMC. 技術を使用した「Dr.Supporter」の販売を開始

大学施設にて研究を進め、特許を取得

2018年に東京都市大学の総合研究センター内に「ミネラル結晶体研究センター」を設立。

2019年に「血中一酸化窒素 (NO) 量の増加」「血管拡張」「バランス能力向上」の3項で、皮膚外用組成物の特許を取得（特許第6557442号）。

東京都市大学 総合研究所 ミネラル結晶体研究センター



IFMC.によって血中に増える物質

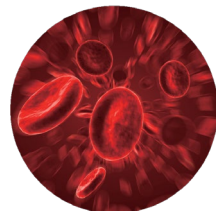
一酸化窒素（NO）とは

血管を拡張、血流量をコントロール

一酸化窒素（NO）は、血管を拡張して血流量を増やす作用があり、人体は、この物質によって血流量をコントロールしているため、血中の一酸化窒素を増やすことで血行の促進が可能と考えています。

血流は、酸素や栄養、免疫細胞やホルモンなどを全身に運び、体温の調節など、人体にとって非常に重要な役割を担っています。

多くの人が「冷え」や「肩こり」や「疲れ」などのからだの不調を抱える現代社会において、IFMC.技術で健康課題の解決に貢献したいと考えています。



ノーベル賞受賞のイグナロ博士が発見

一酸化窒素の血管拡張作用は、1998年ノーベル医学・生理学賞を授与されたイグナロ博士によって発見されました。

狭心症の薬（ニトログリセリン）やED治療薬（バイアグラ）等にも応用されている物質となります。



一酸化窒素を増やすには？

一酸化窒素は、体内でもアルギニンやシトルリンなどの栄養素から作られます。アルギニンは、アンモニアから合成されるので、主にタンパク質を摂取することが、体内で一酸化窒素を増やす食事になります。

第三者機関による効果検証

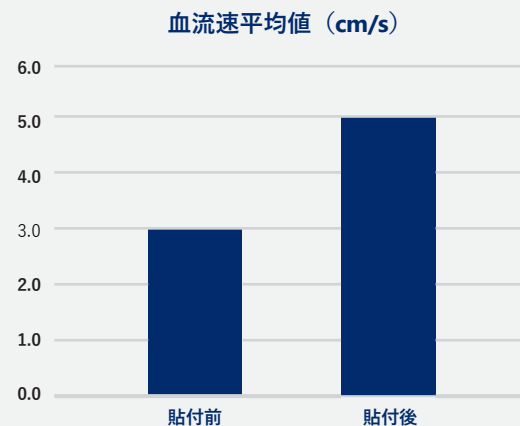
血行促進による『疲労回復』や『こりの緩和』が期待できる「Dr.Supporter」について、サッカーJ1リーグ所属の鹿島アントラーズの協力のもと、エムスリー株式会社に委託し、12歳から62歳までの男女208名を対象に、無作為化プラセボ対照並行群間比較試験を実施。被験者の血流速の変化を測定した結果、**血流速の増加（血行促進効果）**が確認されました。

Dr.Supporterリカバリーテープの有効性に関する試験として、貼付前の平均値が2.9cm/sに対して貼付後の平均値は4.9cm/sと貼付前後で2.0cm/sの増加を確認。

プラセボ対照群との群間比較では $p < 0.001$ と高い有意性を確認。

※製品群、対照群ともに $n=104$

2022年6月6日当社リリース
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000015.000019838.html>



テープ貼付前後の血流速平均。N=104。平均でおよそ 1.7 倍



将来見通しに関する注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合でも、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

IRに関するお問い合わせ <https://ligua.jp/contact/>